

# 令和四年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

## 皆のための税金

広陵町立真美ヶ丘中学校 三年 村山 千秋

急速に世界にスマホが普及して、今では小学生でもスマホやインターネットを使うのが当たり前になりました。その中で問題なのがスマホ依存症や、若者のインターネットの使い方です。暇があれば携帯を触り、何も面白くない動画で一日が過ぎてしまう。適切な使い方を学ぶ前に使って、モラルのないことをしてしまう。実際、私もスマホに依存しているうちの一人です。また、オンラインゲームをしていたとき小学生が見ず知らずの人に暴言を吐く、といったこともときどき見かけました。そこで、私が考えたのはスマホ利用税です。

スマホ利用税とは十八歳未満の子供達を対象にスマホの利用時間数ごとに課せられる税金です。この税金を導入すると、当然、スマホを毎時間利用することに税金を払わなければなりません。誰でもお金を払うのは嫌なので利用時間が減ります。利用時間が減れば、その分他の事に時間を有意義に使うことができ、さらには必然的にインターネットにおけるトラブルも少なくなると思いました。

また、この作文を書く上で税金について調べていたところ、日本は税金だけでは足りず、国民から国債として借金をして国を運営していることを知りました。しかも、国債は毎年返しきれず、年々その額が膨れ上がっているとも書いてありました。スマホ利用税はいわゆる酒税などの「ぜいたく税」と同じようなものだと思います。お酒やたばこがなくても生きていけるように、YouTubeの動画がなくても生きていけます。消費税を上げる以外にもこういうぜいたく税を増やせば、返済できる国債も多くなり、日本の財政も少しは良くなると思いました。

これまで、スマホ利用税の良い点を言ってきましたが、良くない点もあります。それはスマホを勉強や必要だから使っている人にとってはただの負担にしかならないことです。スマホを適切に使えている人にとって負担にしかならないことです。また、たくさんの情報があふれる現代の社会において、インターネットに触れて情報の取捨選択を学ぶことも大事だと思いました。

と、このように、自分なりに世の役に立つような税金を考えてみましたが、全員が納得して公平な税金を考えるのは凄く難しいと思いました。物を買ったら消費税、収入を得たら所得税、と単純なものだと思っていましたが、実際は税金同士が複雑に組み合わせさって公平性を保とうとしていると知りました。なぜ、税金が慎重に決められたり、話が進められるのか分かった気がしました。